

大雨に伴う浸水・冠水後の対策について

R3.8 アグリ技研（株）

1. 圃場の環境整備対策について

①大雨により浸水した圃場は、土壌水分が著しく多くなり、この状態が続き地温が上昇すると、根傷みを起こし草勢低下につながる。圃場を見回り、早急に排水溝・明渠の補修等を行い、排水を促します。

②マルチ栽培の場合は、マルチの裾を株元まで一時的に巻き上げる等して、土壌の乾燥促進、通気性向上に努めましょう。

③作業が可能な土壌水分になったら速やかに軽く畝間等を中耕し、土壌の通気性や透水性の確保に努めましょう。

④土壌の過湿、日照不足による草勢低下や今後の高温多湿により、根腐れ病、疫病、軟腐病等、病害の発生が多くなることが予想されるため、圃場の見回りを行い、病害虫の早期発見と適正防除に努めましょう。

⑤日照不足により草勢が低下していることから、薬害が発生しやすい状況にある。薬剤防除の際には薬害発生に十分注意し、気温の低い時間帯に散布します。

⑥日照不足で草勢が低下しているため、薬剤散布を行う場合は、草勢の回復や維持のために、液肥（ウルル5号・1000倍）で通常よりの低い濃度で葉面散布を行います。

⑦排水も進み、過剰な水が無くなり、土壌状態が良くなったら、窒素主体の肥料を少量灌水追肥します。（10a 当たりアミクエ 2～3 kg）

⑧土壌の浸透排水を良くするために土壌改良剤

（EB-a を 200～500 倍灌水又は 10a 当たり 10～20 ℓ 灌水）を施用します。

⑨葉や茎に泥が付着している場合は、光合成作用を阻害するため、防除の際、散布量をやや多くして、作物の洗浄を兼ねて実施します。

⑩中耕と土寄せは土壌が乾いてから根を切らない程度の中耕を行い、株元に土寄せして、株元を固定する。土壌が湿っているときは、中耕、土寄せは避けましょう。

⑪大雨後の晴天は、葉面からの蒸散が激しく、水分不足となりやすいため、必要に応じて少量灌水に努めましょう。